

## 韓日発掘交流に参加して

奈良文化財研究所との研究交流の一環として、2014年9月16日から11月7日まで奈文研に滞在し、藤原宮跡と平城京興福寺の発掘調査に参加しました。

藤原宮跡の発掘調査は大極殿南側の内庭でおこなわれ、調査の結果、建物、運河、先行条坊道路、古墳等が確認されました。奈文研では、韓国国立慶州文化財研究所と異なり、発掘の面積を小規模に分けて調査をおこなっており、また、考古学や建築史学、文献史学等の様々な専攻の研究員が一つのチームになって、遺構や遺物について多角的に検討をおこなっている点が、建築を専攻する者として羨ましく感じました。

続いて参加した興福寺の発掘調査は、伽藍整備と防災施設建設のための事前調査が並行しておこなわれていました。今回の発掘調査は西室や北円堂、五重塔周辺で進められ、北円堂では回廊と推定される基壇の痕跡と近世以降と推定される土坑や瓦溜りが確認されました。五重塔の調査では明治時代と推定される土管が完全な状態で確認されました。

このほかに薬師寺東塔修理・発掘現場、三河国分尼寺整備状況、足助の歴史的な町並み、博物館明治村の見学や奈文研のGIS(地理情報システム)や遺跡整備を専門とする研究員との懇談等を通じて、日本の過去・現在・未来の文化財の整備方法について、多くのことを学ぶことができ、非常に意義深い交流となりました。

国立慶州文化財研究所と奈文研の韓日発掘交流は来年で10年になります。今後も両国の研究所がさらに良好な関係を維持し、研究者間の学术交流がより一層深まることを期待しています。

(国立慶州文化財研究所 金 東烈、翻訳 諫早 直人)



興福寺での測量風景(左奥が筆者)